

サステイナブルスクール交流便り

五本木小学校 / 東京都 編

2016年9月からESD重点校形成事業～輝け！サステイナブルスクール～が開始して以来、各校から様々なご報告をいただいております。学校間で交流を始めたり、教員同士や事業推進委員の先生方が各校を訪問したりと、その方法は様々です。このような交流から、これまで気がつかなかった自校の魅力を再発見し、その気づきをESD推進の次への一步として活かしている学校が多くあります。サステイナブルスクールへの認定、交流を通して何か発見はあったのでしょうか。また、日々の忙しさの中でどのように交流を実現させているのでしょうか。

今回、サステイナブルスクールを含め、様々な学校と交流をおこなっている五本木小学校にお話を伺いました。

■ 五本木小学校に関して簡単な紹介をお願いします。

本校は都内の住宅街にあり、今年87周年を迎えます。平成22年度からユネスコスクールとして取り組んでいます。敷地の一角に、武蔵野の雑木林の名残、「五本木の森」があり、多くの木々や野の花、井戸、池があり、昆虫や鳥も数多く見られます。身近に自然を感じる、子どもたちが大好きな場所となっています。校内には「目黒ユネスコ協会」事務局があり、活動を共にさせていただく機会が多くあります。先日も、ユネスコスクール委員会の子どもたちと一緒に「西日本豪雨災害緊急募金活動」を行いました。中目黒駅街頭で一人ずつ声をだし募金を呼びかけることは勇気のいることでしたが、自分の呼びかけで集まる募金の重みを実感しました。



■ サステイナブルスクールになってから先生に変化はありましたか？

ACCUが開発された、学校のビジョンと活動を視覚化できるツール「ホールスクールアプローチ・デザインシート」は、ホールスクールアプローチを目指して手探りで年月を重ねてきた本校にとって、とても大きな道標となりました。「教室内外の学び」「地域との連携」「設備と環境」「学校の運営」の視点でそれぞれの持ち場が、サステイナブルな学校文化となる活動は何かを見



つめ直しました。そして個々の活動をまとめ、五本木小サステイナブルマップとして大きく掲示し更新して、発信をしています。

サステイナブルスクールとして2年目には、交流させていただいた京田辺シュタイナー学校での学びを学校で共有し、そこから気づきを得た若い先生が授業に工夫して取り入れていきました。また、SDGsの視点で学級経営を行う先生、教科の特性を生かしてSDGsを子どもと考える先生、少しずつですが先生たちが楽しんでサステイナブルな学校文化づくりを、実践を通して考えていると感じています。本年度から『ESDだより』を保護者や地域に年4回発行することにしました。本校の教育に携わる先生たち

全員が、ESDを自分事として子どもの姿を通して語るというものです。ホールスクールアプローチは、日々営まれていく教育活動を、ビジョンをもとに一人一人の先生が自分事として、たとえささやかな気づきであっても問い続けていくことが大切だと思えるようになりました。

24校が集うサステイナブルスクール研修会からは毎回大いに刺激を受けました。活動や運営の自己評価は、ピア評価を行うことで視点が変わり、価値づけられ、編み直していこうという力を得ました。事業を推進してくださる先生方、ACCUの皆さま、問い続けるサステイナブルスクールの先生方と共有できたことを、現場に染み込ませていきたいと考えています。(文責 / 鈴木陽子)

■ 交流するよさを教えてください。

交流によって、私は自校の教育実践の意味や意義を問うことができました。新たな視点を加えたり、確信をもったりすることができました。日常の忙しさに翻弄され、既存のカリキュラムを深く見詰め直す機会はなかなか多くはありません。その一つ一つ

の意味に出会い直すためにも、他校のカリキュラムや実践と、その考え方や意義を知ることが、私たちに自校の取り組みを考え直すための問いを投げかけてくれるのではないのでしょうか。

■ 交流する際、正直大変なこともあると思います。 大変なこと、そして克服する方法があればその方法を教えてください。



形式の交流ではなく、困難さや悩みも語り合っこそ価値ある学びになると感じています。ですが、交流の機会が多くない私たちにとって、本音で語り合うということは、容易ではありません。

そこを乗り越える必要があるため、交流の際には理想や仮説を共有した上で、全体ではなくテーマを絞った見学や交流の設定が効果的だと思います。

■ 今後の展望（夢）について教えてください。

サステナブルスクールであることの意味、その教育的価値を全教職員で共有し、その上で教師それぞれの想像力が生かされる様々な教育実践が生まれるような学校になればと思います。教師の笑顔のない学校で、子どもたちが学べるはずはありません。本

当に多忙を極め、教材研究の時間さえとりにくい今、とても難しい目標ですが、いつかそんな学校になったらいいなと思います。それが、子どもたちの豊かな心身の成長につながると信じています。

■ 「サステナブルスクール交流便り」を手にされるすべての方々にメッセージをお願いします。

公立学校では、毎年人員の入れ替わりがあること、また長くても6年程度で人事異動があるため、「サステナブルスクール」のような普遍的な教育の在り方について、全員が共通理解することそのものが簡単なことではありません。学習指導要領に示された教育内容を教えながら、サステナブルスクールとしてのものの考え方を実践に生かしていくということを意識的に進める必要

があります。学校長のリーダーシップの下、学校生活の様々なシーンにサステナブルの視点を取り入れていけることが理想なのだと思います。全体に取り入れることが難しい場合は、生活科・総合的な学習の時間において、カリキュラムを作ることが効果的なのではないのでしょうか。（文責 / 松本恭子）



事業開始の背景

国連持続可能な開発のための教育の10年（以下、国連ESDの10年）の最終年となる2014年11月に、日本政府とユネスコの共催により、愛知県名古屋市および岡山県岡山市において、「ESDに関するユネスコ世界会議」が開かれました。その会議において、国連ESDの10年の後継目標として「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」が発表され、同年第69回国連総会にて採択されました。ユネスコ主導の下、2015年から2019年までの5年間、ESDはこのGAPに基づいて推進されています。

また、国内に目を向けると、日本ユネスコ国内委員会に設置されたESD特別分科会が「国連ESDの10年」の成果と課題を整理し、平成27年8月に「持続可能な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて」と題する報告

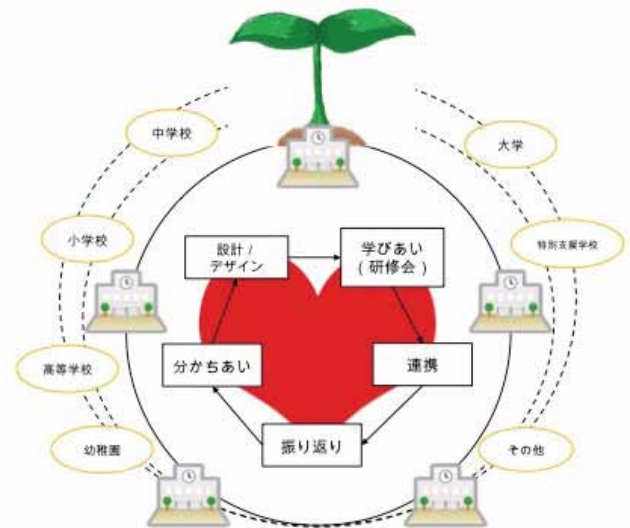
書を取りまとめました。報告では、今後のESD推進方策として、ESD普及のための取組と並行してESDを深化させる（実践力を高める）ための取組の強化がうたわれています。学校全体で、また他校や地域との連携も視野に入れて活動を実践し、持続可能な未来の実現に向け、教育を通じて一人ひとりが変容していくことが期待されています。

このような経緯を受け、日本におけるユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、文部科学省より「平成28年度日本 / ユネスコパートナーシップ事業」の委託を受け、ESD重点校形成事業を実施することとなりました。平成30年度からは「ESDの深化による地域のSDGs推進事業」と名前を改め、補助事業として活動を進めています。

ESD重点校形成事業とは？



ESD重点校形成事業は、教育を通じて持続可能な社会を構築するために、実践的な取組を行う意欲のある学校を公募・選定し、その取組を発展および深化させるために必要な支援をする事業です。学びあい（研修会）→連携→振り返り→分かちあい→設計／デザインのサイクルを繰り返すことにより、重点校（以下、サステナブルスクール）に留まらず、ESDの活動を広げつなげていきます。



サステナブルスクール形成の目的

1. 本事業の支援を受けて、サステナブルスクールが事業に関わるすべての人に学びをもたらす活動を展開し、自らの思考・行動の変容によって成長すること
2. 他のサステナブルスクールの成果を自校の取組に生かし、サステナブルスクール同士も連携しながら多面的な魅力を持つ学校へ発展すること
3. サステナブルスクールが本事業の支援を受けてESD実践校として自立し、周辺の他の学校や地域・家庭を先導してESDの深化に寄与すること
4. サステナブルスクールの寄与によりESDが教育現場そして地域社会に根付き、持続可能な社会を構築していくこと
5. 加えて、その活動を世界へ向けて発信し、国際的に展開していくこと

関連資料のご紹介

※ 送料のみご負担いただければ、書籍の送付も可能です。

「ひと目でわかるESD 推進事業ガイド」

本冊子は、ACCU がユネスコスクール事務局として実施する ESD 推進事業を一冊にまとめたものです。ESD に対して十分な理解があり活動を深化していきたい方、ESD に関心はあるけれどもどのように活動をはじめたらよいかわからない方など ESD に関わっている全ての方が活動を始める第一歩を踏み出すことができるようになる一冊となっています。この一冊を通して、皆様に出会えることを楽しみにしております。



(日・英)

「キラリ発進！サステナブルスクールーホールスクールで描く未来の学校」

本冊子は、平成 28 年度及び平成 29 年度日本／ユネスコパートナーシップ事業として文部科学省から委託を受け実施した ESD 重点校形成事業の制作物です。通称サステナブルスクールとして認定されている 24 校、各校の取組や本事業の軸となっているホールスクールアプローチについてまとまっています。この一冊を通して、「新しい学び」が全国に広がっていくことを心より願っています。



Vol.1 / 2017 (日)



Vol.2 / 2018 (日)

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) について

ACCU は、ユネスコ (UNESCO, 国際連合教育科学文化機関) から「アジア太平洋地域での文化の相互交流を促進する中核的センター」の設置を打診されたことを契機に、1971 年に日本政府と出版界を中心とした民間の協力によって設立されました。設立以来、ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連帯のうえに築かれるものである」という精神のもとに、日本を拠点にアジア・太平洋地域諸国の教育と文化の分野でユネスコや各国関係団体と協力して、人材の育成と相互交流を促進する事業を行っています。

現在、文部科学省より委託を受け、ユネスコスクール事務局としてユネスコスクール加盟時、加盟後の支援をおこなっています。

〈 お問い合わせ先 〉



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32-7F 出版クラブビル
TEL : 03-5577-2852 FAX : 03-5577-2854
E-mail : webmaster@accu.or.jp URL : <http://www.accu.or.jp>